

英国経済：米英貿易協定の英景気浮揚効果は限定的

米国と英国は5月8日、新たな貿易協定での合意を発表。これにより、第2次トランプ米政権によって引き上げられた自動車や鉄鋼・アルミ製品などの対米輸出関税が引き下げられる模様。もっとも、本協定による英国経済へ押し上げ効果は限定的。スターマー政権は合意を歴史的とアピールするも支持率回復にはつながらず、政権運営は厳しい状況が続く。

米英が貿易協定の大枠で合意

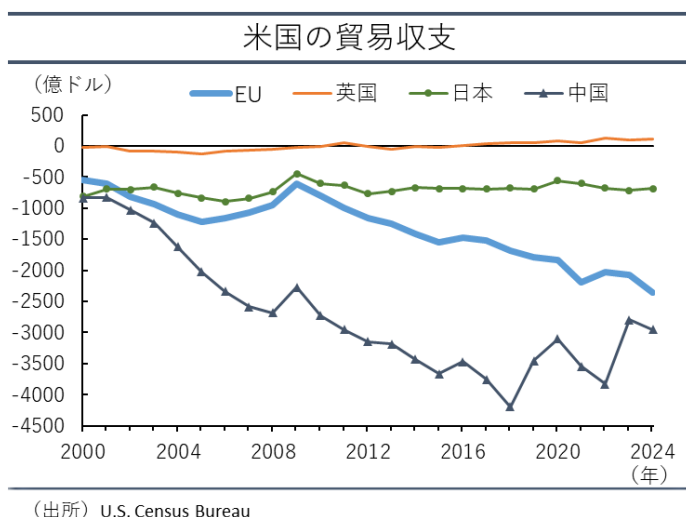
米国と英国は5月8日、英国産自動車の対米輸出にかかる関税の一部引き下げなどを含む、二国間貿易協定での合意を発表した。第二次トランプ米政権による主要貿易相手国との関税交渉で、初の合意となった。

今回の合意の下、米国が全世界からの自動車輸入に対して課している25%の追加関税が、英国車については年間10万台を上限に7.5%まで引き下げられる（従来の2.5%と合わせて関税率は10%となる）。また、同様にトランプ政権が課している鉄鋼・アルミニウム製品への25%の追加関税は、英国に対しては撤廃される模様だ。ただし、ほとんどの対米輸出品に課されている10%の相互関税については維持される。

一方、英国は米国産のビール製造用エタノールに対する関税を撤廃するほか、100億ドル相当の米ボーイング製の航空機を購入する見込み。米国が求めていた農産品の規制緩和については応じなかった。

英国が他国に先行して米国との貿易協定に合意することができた背景には、英国がトランプ関税に対して表立った非難をせず交渉に徹したことに加え、そもそも米国と英国の貿易収支は米国の黒字であることが指摘できる（右図）。トランプ米大統領は貿易赤字の是正に重きを置いているため、英国のような黒字の貿易相手国に対してはそれほど厳しい姿勢を取る必要性がなかったと考えられる。

米英両政府は今後、貿易協定の詳細に関する交渉と国内での法的手続きを進める。しかし、今回発表された内容では、関税が撤廃される鉄鋼・アルミ製品の具体的な範囲や、トランプ氏が今後の関税引き上げを示唆している医薬品に関する英国の扱いなど、不透明な部分が多い。また、一部の合意内容について米英両政府の発表に食い違いもみられる。こうしたことを踏まえると、今後の交渉にはさらに数ヶ月の期間を要する可能性があるだろう。

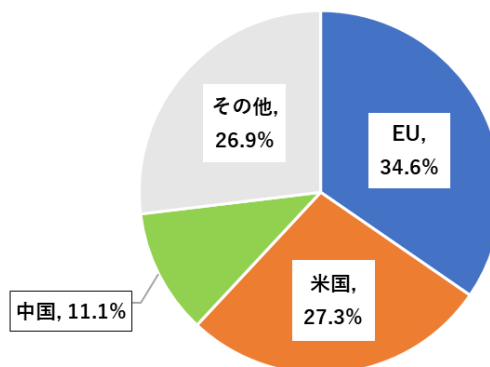


英国経済の押し上げ効果は限定的

今回の米英貿易協定による英国景気の押し上げ効果は、自動車産業など局所的には小さくないものの、経済全体でみれば限られたものになる見通しだ。

英国の自動車産業は、本協定で最も恩恵を受ける産業だ。英自動車製造販売車協会（SMMT）によると、2024 年の英国の米国向け自動車輸出台数は約 10.1 万台と今回設定された輸入枠で大半をカバーできる。米国向けが占める金額ベースでのシェアは乗用車輸出全体の 27.3%と、EU の 34.6%に次いで大きく、一国では最大の市場規模だ（右図）。10%という関税率は 4 月の関税引き上げ前の 2.5%に比べれば確かに高止まりしているが、現状は他国からの自動車輸入に 25%以上の関税が課されていることによって、輸入車間の価格競争では以前よりも有利になる。4 月以前と比較した 7.5%の関税引き上げ分による悪影響は、こうした相対的な価格優位性によってある程度相殺可能になるだろう。

英国の乗用車輸出シェア（金額ベース）



（出所）UK Trade Info

一方、英国の輸出全体でみると、本協定による恩恵はそれほど大きくない。米国は英国にとって最大の貿易相手国だが、それでも米国向け名目輸出が英国の輸出全体に占める割合は 2024 年時点で 16.2%にとどまる。その中で今回関税引き下げの主な対象となった自動車関連や鉄鋼・アルミ関連の品目が米国向け輸出に占める割合は、それぞれ 15.5%、1.7%だ。つまり、恩恵を受けるのは英国の輸出全体の 2.8%ということになる¹。仮に米国向けの自動車・鉄鋼・アルミ関連の輸出が本協定によって 20%増加したとしても、輸出全体でみた増加分は 0.6%弱にとどまる。

マクロ経済全体では、影響はさらに限定的だ。英国経済に占める財貿易の規模はそれほど小さくなく、2024 年の貿易依存度²は 12.8%だ。したがって、輸出が 0.6%増加した時の GDP 押し上げ幅は、0.1%以下にとどまる計算となる。今後の交渉が順調に進み、米英貿易協定が発効されたとしても、それによって英国の景気が好転することは期待しがたい。

スターマー政権の支持回復にもつながらず

今回の貿易協定合意に対する英国内からの評価も高いとはいえない。

スターマー英首相は合意発表の声明で、今回の合意を「歴史的合意」と評価し、「英国のビジネスと労働者に恩恵をもたらす」とアピールした。与党・労働党の議員らは合意を称賛する一方、保守党などの野党からは、英国側が一方的に関税を引き下げさせられているといった批判の声が上がっている。

¹ 実額では、2024 年の英国の輸出合計：3657 億ポンド、うち米国向け自動車関連：92 億ポンド、米国向け鉄鋼・アルミ関連：10 億ポンド、となる。

² 貿易依存度＝名目財輸出／名目 GDP

自動車業界や鉄鋼業界などは今回の合意を歓迎しているものの、その恩恵が局所的であったためか、国民からの評価は芳しくない。スターマー政権の支持率は首相就任直後から低迷が続いており（右図）、5月1日に行われた地方選挙でも極右政党「リフォーム UK」に大敗を喫した。政権内には今回の米国との交渉進展をアピール材料に国民からの支持を回復できるとの期待があったと思われるが、合意発表後の5月12日時点の世論調査でも支持率に大きな変化は見られなかった。スターマー首相は引きつづき厳しい政権運営を迫られることになる。

スターマー政権の支持率

